

2026年6月16日
株式会社エコグリーンホールディングス

EGForest の進めている千葉県での森林再生の取り組みについて 『土木学会誌』に掲載されました

株式会社エコグリーンホールディングス(本社:東京都中央区、代表取締役社長:石井光暢、以下「EGHD」という。)傘下の株式会社 EGForest(本社:千葉県富里市、代表取締役社長:寺島広高、以下「EGF」)は、千葉県で進めてきた森林再生の取り組みについて寄稿文としてまとめ、2026年6月15日発行の『土木学会誌』(vol111 No.6 June 2026、発行者:公益社団法人土木学会)に「新たな森づくり計画—ユーカリを活用した森林経営計画の意義と展望—」として掲載されました。

[全文はこちら\(PDF\)](#)

(寄稿文の概要)

EGHD の傘下である EGF は、千葉県内でユーカリを活用した森林経営を展開しており、25 年 7 月には、ユーカリを基幹樹種とする森林経営計画が農林水産大臣の認定を受けている。被災地や病害地を中心に造林を進めており、2026 年 1 月には管理面積 250ha を突破した。

国内林業は、戦後に植栽されたスギ・ヒノキが成熟期を迎える一方、担い手不足や木材価格低迷により更新サイクルが停滞し、森林荒廃や災害リスクの増大が課題となっている。特に千葉県では多くの地域でスギ非赤枯性溝腐病による空洞化や立ち枯れなども増えている。EGF では、成長が早く短伐期で収益化が可能なユーカリを導入し、経済性と持続可能性の両立を図る計画を進めている。ユーカリは約 10 年で収穫可能なほか、萌芽更新により再造林コストを抑制でき、荒廃地でも生育可能という利点を持つ。

一方で外来種導入に伴う生態系への影響については慎重な管理が求められるが、ユーカリは日本国内で逸出事例は確認されておらず、植栽設計により在来種との共存も十分考慮している。今後は荒廃森林の再生に加え、パルプ材やバイオマス燃料としての需要拡大、カーボンクレジット創出など多面的な価値創出が期待される。



△ユーカリの植林



△成長したユーカリ

EGHD ならびに EGF では今後もユーカリを活用した森づくりの知見を活かし、各地域の特性に即した共生をすすめ、持続性のある木質バイオマスの生産方法を確立し千葉県の森林再生を進めていきます。

<お問い合わせ先>

株式会社エコグリーンホールディングス 経営企画部(酒井、徳永)
TEL 03-3537-3240(代表)